

「イノベーション探究Ⅲ」～ユニバーサルプログラム～

1 実施日

令和4年7月15日（金）5・6限

2 場所

多目的教室

3 対象

グローバル科3年生（6・7組）

4 講師

鳥羽高等学校 教諭 小野田千里 桂カイ 中澤知里 山口理紗
京都府名誉友好大使15名、AET5名

5 内容

1学期に2年次で取り組んだ研究ノートの内容を英語に要約し、探究の内容を英語で発表するという形にアップグレードした。チーム毎に京都府名誉友好大使（留学生等）に探究内容を発表して、助言をえた。実施スケジュールは次のとおりである。

第1回	4月13日	オリエンテーション・役割分担
第2回	4月27日	プレゼンテーションソフトによる資料・要約作成
第3回	5月11日	
第4回	5月18日	
第5回	6月1日	プレゼンテーションソフトによる資料・要約提出
第6回	6月8日	修正
第7回	6月15日	プレ発表（グループ間）
第8回	6月22日	プレ発表（クラス）
第9回	6月29日	
第10回	7月15日	本番（2h）

6 学び

（生徒感想）

- ・自分たちの考えをまとめたものを英語で発表できる機会があつてとても良かった。
- ・英語でのプレゼンテーションはとても難しかったが楽しかった。
- ・プレゼンテーションを聞いてもらって、日本の感覚と海外の感覚が違うことを実感した。
- ・自分たちのテーマについて、留学生の国における現状を話してもらえて良かった。
- ・留学生の中には英語が母国語ではない人もいたので、今からでも英会話を頑張れば遅くないのだと気づいた。

（留学生）

- ・生徒が自分の英語力を試すまたとない機会になった。
- ・今の日本の高校生が考えていることを知れて刺激的だった。
- ・自分が大学院で研究しているような内容に触れていて、大変驚いた。

(教職員感想)

- ・生徒にとって、なんとか会話をつなごうと必死になれる2時間だった。
- ・タイムスケジュール通りにとってもスムーズに進んでいたのがよかった。
- ・英語が完璧でなくとも、多少崩れていても、なんとかコミュニケーションをとってみようとする前向きな生徒の姿が見られた。

7 次回への課題

20名の留学生を募集するために、京都名誉友好大使の他に、留学生ハウス等との連携を密にする必要がある。学習者に発表形態を具体的に伝えることができなかった。次年度からは本形態を学習者に伝えて、発表に向けての準備を十分に行わせる。

8 授業の振り返り

本プレゼンテーション大会は、運営面に課題は多いが、コロナ禍においても学習者が海外学生との交流の機会を持つことができる、グローバル科らしい意義のある取組である。学習者の満足度も非常に高い。留学生に「次年度もし同じ活動があれば参加したいか」というアンケートをとったところ、19人中17人から「はい」という回答を得た（「いいえ」のうち1人は帰国予定のため「いいえ」と回答）ことから、留学生にとっても満足度の高い取組になった。学習者には、なんとか留学生とコミュニケーションをとろうとする前向きな姿がみられた。また、会話内容を振り返って、言い方がよりよくなるよう考える姿もみられた。また、留学生の母国では、探究内容についてどう考えているかなど、WEB等からは入手できない貴重な情報も対話によって得ることができる取組になった。

